

「多くの人が取り組みに共感してくれた。続けてきてよかった」

通称「ナミねえ」。長女(三女)に重症心身障害があったのをきっかけに一九九一年、障害者の就労を支援する「プロップ・ステーション」を設立し、九八年には社会福祉法人に活動を認められ、今年三月、在日米
国大使館から「勇気ある日本女性賞」を授与された。

「チャレンジジド」(障害のある人)という言葉に共感する。もともと米
国で「挑戦」という使命、課題を与えられた人」との意味で使われた。

在日米国大使館から「勇気ある日本女性賞」を授与された

たけなか 竹中 ナミさん



「私たちができるのはほんの一握りだけど、『こんなことができる』と発信するとそれが普通になり、制度を動かす力になる」

亡父は後に「あのとき、死ななくてよかった」と話してくれた。米国の受賞に「励みになるし、プレッシャーでもある。次は娘を残して安心して死ねる社会に」。パワーは衰えない。神戸市出身。六十歳。

障害をマイナスととらえず、障害者としての体験を前向きに生かせることを願う。「納税者にできることを変えなきゃ」との思いは募った。本人の努力に加え、社会の意識と

障害のある娘が生まれたとき、父は「わしが連れて死ぬ」と言っ期待される人として輝ける。プロップ

(小西博美)